

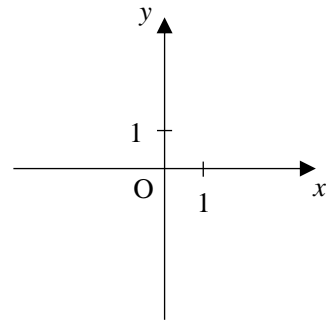
# 複素数平面

以下、 $i$ は虚数単位を表すものとする。

## 1 複素数平面

次の複素数を表す点を複素数平面上に図示せよ。

- (1)  $2+3i$       (2)  $-1+2i$       (3)  $-3-i$   
 (4)  $2-2i$       (5)  $-2$       (6)  $i$   
 (7)  $0$

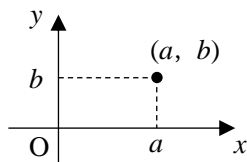


## 要 点

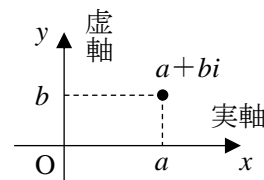
### 複素数平面

$a, b$  を実数とする。複素数  $a+bi$  は、実部  $a$  と虚部  $b$  の組で定まるから、 $a+bi$  に座標平面上の点  $P(a, b)$  を対応させると、すべての複素数がこの平面上の点で表される。各点が複素数を表すと定められた座標平面を **複素数平面** といい、 $x$  軸を **実軸**， $y$  軸を **虚軸** という。

複素数  $z=a+bi$  を表す点  $P$  を、 **$P(z)$**  または  **$P(a+bi)$**  で表す。単に **点  $z$**  または **点  $a+bi$**  と表すこともある。

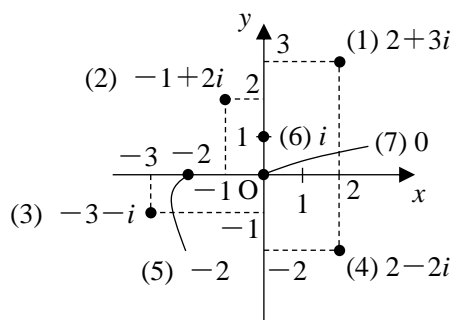


座標平面



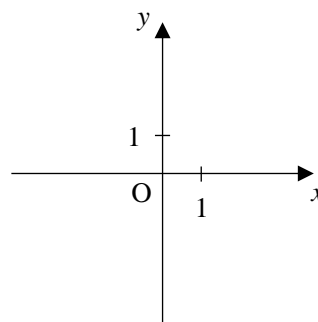
複素数平面

## 解答



**2** 共役な複素数

(1)  $z = 1 + 2i$  のとき, 4 点  $z, \bar{z}, -z, -\bar{z}$  を複素数平面上にそれぞれ図示せよ。



(2) 複素数  $\alpha, \beta$  について, 次の問いに答えよ。

- ①  $\alpha - \beta = -2$  のとき,  $\bar{\alpha} - \bar{\beta}$  を求めよ。
- ②  $\alpha\beta = 3i$  のとき,  $\bar{\alpha}\bar{\beta}$  を求めよ。

**要 点**

$a, b$  を実数とする。

複素数  $z = a + bi$  に対して,  $\bar{z} = a - bi$  を  $z$  の **共役な複素数** という。

**共役な複素数の性質**

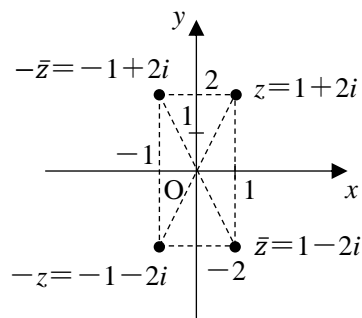
複素数  $z = a + bi$  に対して

- $z$  が実数のとき,  $b = 0$  であるから  $\bar{z} = z$
- $z$  が純虚数のとき,  $a = 0, b \neq 0$  であるから  $\bar{z} = -z$  かつ  $z \neq 0$
- $z, w$  は複素数とする。

- 1**  $\overline{z + w} = \bar{z} + \bar{w}$                       **2**  $\overline{z - w} = \bar{z} - \bar{w}$                       **3**  $\overline{z\bar{w}} = \bar{z}w$
- 4**  $\overline{\left(\frac{z}{w}\right)} = \frac{\bar{z}}{\bar{w}} \quad (w \neq 0)$                       **5**  $\overline{(\bar{z})} = z$

**解答**

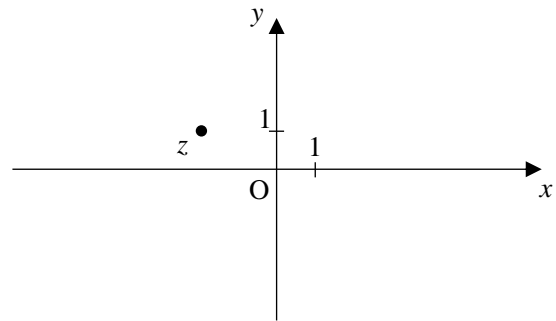
(1)



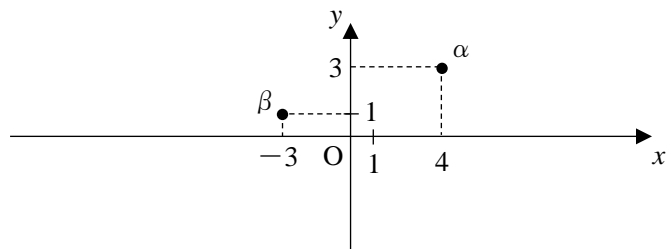
- (2) ①  $\alpha - \beta$  は実数であるから  $\overline{\alpha - \beta} = \alpha - \beta = -2$   
 よって  $\bar{\alpha} - \bar{\beta} = \overline{\alpha - \beta} = -2$
- ②  $\alpha\beta$  は純虚数であるから  $\overline{\alpha\beta} = -\alpha\beta = -3i$   
 よって  $\bar{\alpha}\bar{\beta} = \overline{\alpha\beta} = -3i$

**3** 複素数の実数倍, 加法, 減法

(1)  $z = -2 + i$  のとき, 点  $2z, 3z, -z, -2z, -3z$  を複素数平面上にそれぞれ図示せよ。



(2)  $\alpha = 4 + 3i, \beta = -3 + i$  のとき, 点  $\alpha + \beta, \alpha - \beta, -\alpha + 3\beta$  を複素数平面上にそれぞれ図示せよ。

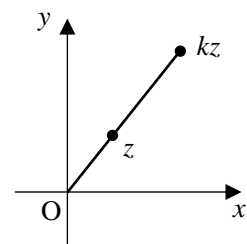


**要 点**

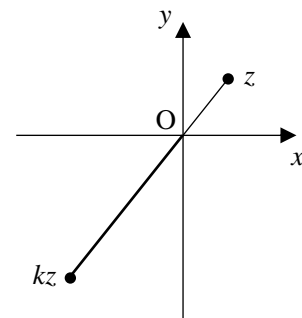
複素数の実数倍

0 でない複素数  $z$  と実数  $k$  について, 次のことが成り立つ。

- 3 点  $O(0), z, kz$  は一直線上にある。
- $k > 0$  のとき, 点  $kz$  は原点に関して点  $z$  と同じ側にあり, 原点からの距離は  $0, z$  間の距離の  $k$  倍である。



- $k < 0$  のとき, 点  $kz$  は原点に関して点  $z$  と反対側にあり, 原点からの距離は  $0, z$  間の距離の  $|k|$  倍である。

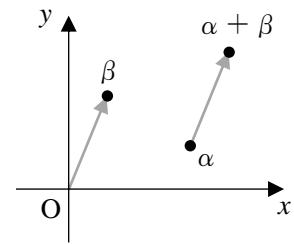


- $k = 0$  のとき  $kz = 0$

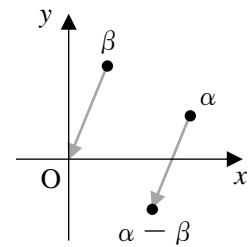
複素数の加法, 減法

複素数  $\alpha$ ,  $\beta$  について, 次のことが成り立つ。

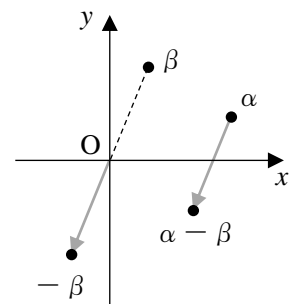
・点  $\alpha + \beta$  は, 原点  $O$  を点  $\beta$  に移す平行移動  
 によって点  $\alpha$  を移した点である。



・点  $\alpha - \beta$  は, 点  $\beta$  を原点  $O$  に移す平行移動  
 によって点  $\alpha$  を移した点である。

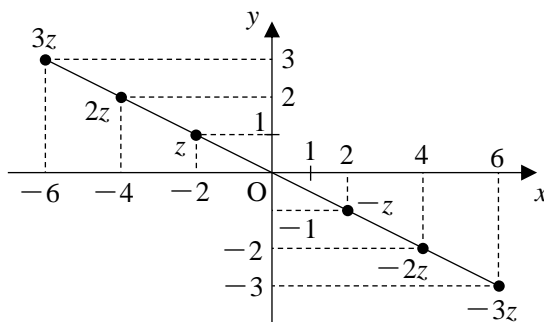


〈注意〉  $-\beta = +(-\beta)$  より, 点  $\beta$  を原点  $O$  に  
 移す平行移動は, 原点  $O$  を点  $-\beta$  に  
 移す平行移動と同じである。

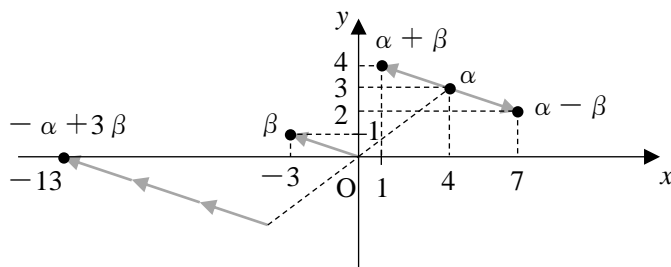


解答

(1)



(2)



**4** 複素数の絶対値

次の複素数の絶対値を求めよ。

- (1)  $1+2i$                       (2)  $-3+4i$                       (3)  $2$                               (4)  $-i$

**要 点**

複素数の絶対値

$a, b$  を実数とする。複素数  $z = a + bi$  に対し、 $\sqrt{a^2 + b^2}$  を  $z$  の **絶対値** といい、 $|z|$  で表す。

すなわち  $|z| = |a + bi| = \sqrt{a^2 + b^2}$

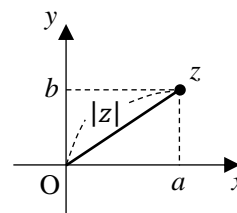
$|z|$  は、原点  $O$  から点  $z$  までの距離である。

$|z| \geq 0$  であり、 $|z| = 0$  となるのは  $z = 0$  のときに限る。

〈注意〉  $z = a + bi$  のとき、 $\bar{z} = a - bi$  であり、

$$z\bar{z} = (a + bi)(a - bi) = a^2 - b^2i^2 = a^2 + b^2 \text{ より}$$

$$|z|^2 = z\bar{z} \text{ が成り立つ。}$$



**解答**

- (1)  $|1 + 2i| = \sqrt{1^2 + 2^2} = \sqrt{5}$                       (2)  $|-3 + 4i| = \sqrt{(-3)^2 + 4^2} = 5$   
 (3)  $|2| = \sqrt{2^2 + 0^2} = 2$                               (4)  $|-i| = \sqrt{0^2 + (-1)^2} = 1$

**5** 複素数の極形式

次の複素数を極形式で表せ。ただし、偏角  $\theta$  は  $0 \leq \theta < 2\pi$  とする。

- (1)  $1 + \sqrt{3}i$                       (2)  $-2 - 2i$                       (3)  $-1$                               (4)  $3i$

**要 点**

$a, b$  を実数とする。0 でない複素数  $z = a + bi$  を表す点を  $P$  とする。

半直線  $OP$  を動径と考えて、動径  $OP$  の表す角  $\theta$  を  $z$  の **偏角** といい、 $\arg z$  で表す。

〈注意〉 記号  $\arg$  は argument の略である。

$OP = r$  とすると、 $r$  は  $z$  の絶対値であり、 $a = r\cos \theta$ 、 $b = r\sin \theta$  となり、

$z = a + bi$  は  $z = r(\cos \theta + i\sin \theta)$  の形で表される。これを、複素数  $z$  の **極形式** という。

以上をまとめると、0 でない複素数  $z = a + bi$  において

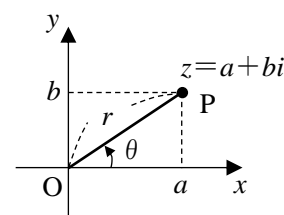
$$r \text{ は } z \text{ の絶対値であるから } r = \sqrt{a^2 + b^2}$$

$$\theta \text{ は } z \text{ の偏角であるから } \cos \theta = \frac{a}{r}, \sin \theta = \frac{b}{r} \text{ を満たす角であり、}$$

その極形式は  $z = r(\cos \theta + i\sin \theta)$  と表される。

〈注意〉・0 でない複素数  $z$  において、 $z$  の絶対値は 1 通りに定まるが、偏角  $\theta$  はその 1 つを  $\theta_0$  としたとき  $\theta = \theta_0 + 2n\pi$  ( $n$  は整数) も同じ位置にくるから 1 つに定まらない。 $0 \leq \theta < 2\pi$  や  $-\pi \leq \theta < \pi$  の範囲で偏角を考えるのが一般的である。

・ $z = 0$  のときは偏角が定められないため、極形式は考えない。



解答

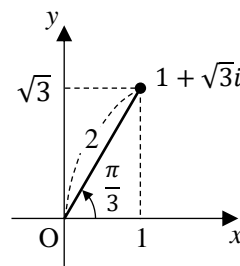
(1)  $1 + \sqrt{3}i$  の絶対値は

$$|1 + \sqrt{3}i| = \sqrt{1^2 + (\sqrt{3})^2} = 2$$

偏角  $\theta$  は

$$\cos\theta = \frac{1}{2}, \quad \sin\theta = \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ より } \theta = \frac{\pi}{3}$$

$$\text{よって } 1 + \sqrt{3}i = 2 \left( \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right)$$



(2)  $-2 - 2i$  の絶対値は

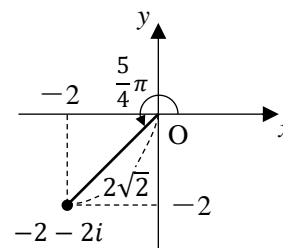
$$|-2 - 2i| = \sqrt{(-2)^2 + (-2)^2} = 2\sqrt{2}$$

偏角  $\theta$  は

$$\cos\theta = \frac{-2}{2\sqrt{2}} = -\frac{1}{\sqrt{2}}, \quad \sin\theta = \frac{-2}{2\sqrt{2}} = -\frac{1}{\sqrt{2}} \text{ より}$$

$$\theta = \frac{5}{4}\pi$$

$$\text{よって } -2 - 2i = 2\sqrt{2} \left( \cos \frac{5}{4}\pi + i \sin \frac{5}{4}\pi \right)$$



(3)  $-1$  の絶対値は

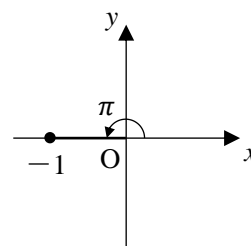
$$|-1| = \sqrt{(-1)^2 + 0^2} = 1$$

偏角  $\theta$  は

$$\cos\theta = \frac{-1}{1} = -1, \quad \sin\theta = \frac{0}{1} = 0 \text{ より}$$

$$\theta = \pi$$

$$\text{よって } -1 = \cos \pi + i \sin \pi$$



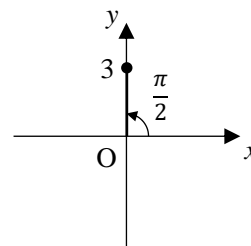
(4)  $3i$  の絶対値は

$$|3i| = \sqrt{0^2 + 3^2} = 3$$

偏角  $\theta$  は

$$\cos\theta = \frac{0}{3} = 0, \quad \sin\theta = \frac{3}{3} = 1 \text{ より } \theta = \frac{\pi}{2}$$

$$\text{よって } 3i = 3 \left( \cos \frac{\pi}{2} + i \sin \frac{\pi}{2} \right)$$



6 複素数の乗法・除法

$\alpha = \sqrt{3} - i$ ,  $\beta = -2 + 2i$  のとき,  $\alpha\beta$ ,  $\frac{\alpha}{\beta}$  をそれぞれ極形式で表せ。

ただし, 偏角  $\theta$  は  $0 \leq \theta < 2\pi$  とする。

## 要 点

0 でない 2 つの複素数を

$$z_1 = r_1(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1), \quad z_2 = r_2(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2)$$

とすると、積  $z_1 z_2$ , 商  $\frac{z_1}{z_2}$  は次のようになる。

$$\begin{aligned} \bullet z_1 z_2 &= r_1(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1) \cdot r_2(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2) \\ &= r_1 r_2 (\cos \theta_1 \cos \theta_2 + i \sin \theta_2 \cos \theta_1 + i \sin \theta_1 \cos \theta_2 + i^2 \sin \theta_1 \sin \theta_2) \\ &= r_1 r_2 \{(\cos \theta_1 \cos \theta_2 - \sin \theta_1 \sin \theta_2) + i(\sin \theta_1 \cos \theta_2 + \cos \theta_1 \sin \theta_2)\} \end{aligned}$$

三角関数の加法定理  $\cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$

$$\sin(\alpha + \beta) = \sin \alpha \cos \beta + \cos \alpha \sin \beta$$

を適用すると

$$z_1 z_2 = r_1 r_2 \{ \cos(\theta_1 + \theta_2) + i \sin(\theta_1 + \theta_2) \}$$

$$\begin{aligned} \bullet \frac{z_1}{z_2} &= \frac{r_1(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1)}{r_2(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2)} = \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1)(\cos \theta_2 - i \sin \theta_2)}{(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2)(\cos \theta_2 - i \sin \theta_2)} \\ &= \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{\cos \theta_1 \cos \theta_2 - i \sin \theta_2 \cos \theta_1 + i \sin \theta_1 \cos \theta_2 - i^2 \sin \theta_1 \sin \theta_2}{\cos^2 \theta_2 + \sin^2 \theta_2} \\ &= \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{(\cos \theta_1 \cos \theta_2 + \sin \theta_1 \sin \theta_2) + i(\sin \theta_1 \cos \theta_2 - \cos \theta_1 \sin \theta_2)}{\cos^2 \theta_2 + \sin^2 \theta_2} \end{aligned}$$

三角関数の加法定理  $\cos(\alpha - \beta) = \cos \alpha \cos \beta + \sin \alpha \sin \beta$

$$\sin(\alpha - \beta) = \sin \alpha \cos \beta - \cos \alpha \sin \beta$$

を適用すると

$$\frac{z_1}{z_2} = \frac{r_1}{r_2} \cdot \frac{\cos(\theta_1 - \theta_2) + i \sin(\theta_1 - \theta_2)}{1} = \frac{r_1}{r_2} \{ \cos(\theta_1 - \theta_2) + i \sin(\theta_1 - \theta_2) \}$$

以上から、次のことが成り立つ。

0 でない 2 つの複素数  $z_1 = r_1(\cos \theta_1 + i \sin \theta_1)$ ,  $z_2 = r_2(\cos \theta_2 + i \sin \theta_2)$  において

$$\boxed{1} \quad z_1 z_2 = r_1 r_2 \{ \cos(\theta_1 + \theta_2) + i \sin(\theta_1 + \theta_2) \}$$

$$\text{これから } |z_1 z_2| = |z_1| |z_2|, \quad \arg(z_1 z_2) = \arg z_1 + \arg z_2$$

$$\boxed{2} \quad \frac{z_1}{z_2} = \frac{r_1}{r_2} \{ \cos(\theta_1 - \theta_2) + i \sin(\theta_1 - \theta_2) \}$$

$$\text{これから } \left| \frac{z_1}{z_2} \right| = \frac{|z_1|}{|z_2|}, \quad \arg \frac{z_1}{z_2} = \arg z_1 - \arg z_2$$

**解答**

$\alpha, \beta$  の極形式は

$$\alpha = \sqrt{3} - i = 2 \left( \cos \frac{11}{6} \pi + i \sin \frac{11}{6} \pi \right)$$

$$\beta = -2 + 2i = 2\sqrt{2} \left( \cos \frac{3}{4} \pi + i \sin \frac{3}{4} \pi \right)$$

であるから

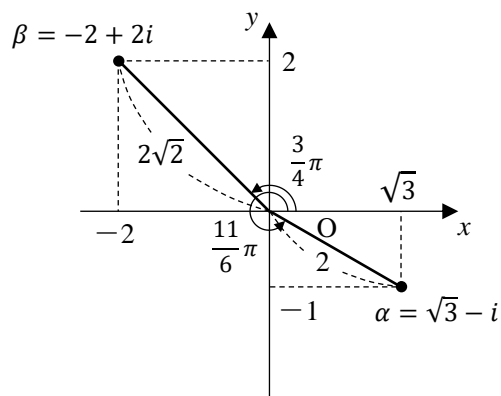
$$\alpha\beta = 2 \left( \cos \frac{11}{6} \pi + i \sin \frac{11}{6} \pi \right) \cdot 2\sqrt{2} \left( \cos \frac{3}{4} \pi + i \sin \frac{3}{4} \pi \right)$$

$$= 4\sqrt{2} \left\{ \cos \left( \frac{11}{6} \pi + \frac{3}{4} \pi \right) + i \sin \left( \frac{11}{6} \pi + \frac{3}{4} \pi \right) \right\}$$

$$= 4\sqrt{2} \left( \cos \frac{31}{12} \pi + i \sin \frac{31}{12} \pi \right) = 4\sqrt{2} \left( \cos \frac{7}{12} \pi + i \sin \frac{7}{12} \pi \right)$$

$$\frac{\alpha}{\beta} = \frac{2 \left( \cos \frac{11}{6} \pi + i \sin \frac{11}{6} \pi \right)}{2\sqrt{2} \left( \cos \frac{3}{4} \pi + i \sin \frac{3}{4} \pi \right)} = \frac{1}{\sqrt{2}} \left\{ \cos \left( \frac{11}{6} \pi - \frac{3}{4} \pi \right) + i \sin \left( \frac{11}{6} \pi - \frac{3}{4} \pi \right) \right\}$$

$$= \frac{\sqrt{2}}{2} \left( \cos \frac{13}{12} \pi + i \sin \frac{13}{12} \pi \right)$$



**7** 複素数の積を表す点

2つの複素数  $\alpha = 1 + i, z$  について、点  $\alpha z$  は点  $z$  をどのように移動した点か。

**要 点**

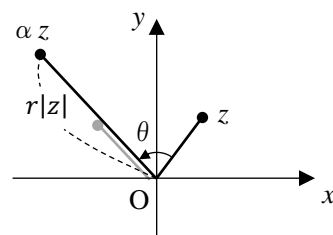
複素数  $\alpha z$  を表す点は、点  $z$  を

原点  $O$  のまわりに  $\arg \alpha$  だけ回転し、

原点からの距離を  $|\alpha|$  倍

した点である。

$\alpha = r(\cos \theta + i \sin \theta)$  のとき



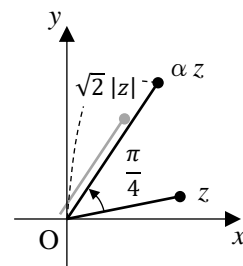
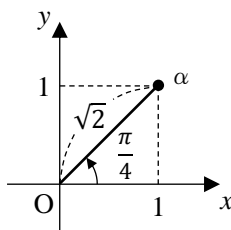
**解答**

$$\alpha = 1 + i = \sqrt{2} \left( \cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$$

であるから、点  $\alpha z$  は

点  $z$  を、原点  $O$  のまわりに  $\frac{\pi}{4}$  だけ

回転し、原点からの距離を  $\sqrt{2}$  倍した点である。





8 複素数の商を表す点

2つの複素数  $\alpha = \sqrt{3} + i$ ,  $z$  について, 点  $\frac{z}{\alpha}$  は点  $z$  をどのように移動した点か。

要 点

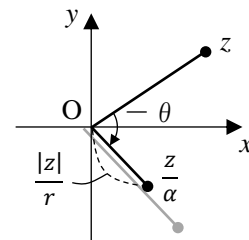
複素数  $\frac{z}{\alpha}$  を表す点は, 点  $z$  を

原点  $O$  のまわりに  $-\arg \alpha$  だけ回転し,

原点からの距離を  $\frac{1}{|\alpha|}$  倍

した点である。

$\alpha = r(\cos \theta + i \sin \theta)$  のとき



解答

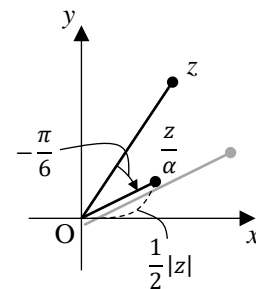
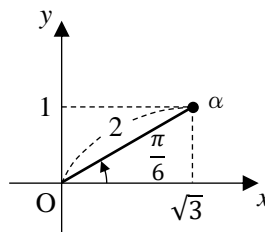
$$\alpha = \sqrt{3} + i = 2 \left( \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

であるから, 点  $\frac{z}{\alpha}$  は

点  $z$  を, 原点  $O$  のまわりに  $-\frac{\pi}{6}$  だけ

回転し, 原点からの距離を  $\frac{1}{2}$  倍

した点である。



9 複素数の  $n$  乗の計算 (ド・モアブルの定理の利用)

次の計算をせよ。

(1)  $\left( \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right)^3$

(2)  $(1 - i)^6$

要 点

ド・モアブルの定理

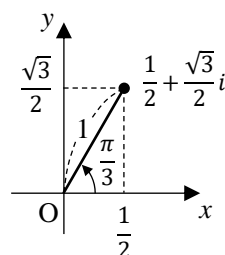
$n$  が整数のとき  $(\cos \theta + i \sin \theta)^n = \cos n \theta + i \sin n \theta$

## 解答

$$(1) \quad \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i = \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}$$

であるから、ド・モアブルの定理により

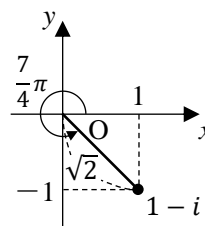
$$\begin{aligned} \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)^3 &= \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}\right)^3 = \cos\left(3 \cdot \frac{\pi}{3}\right) + i \sin\left(3 \cdot \frac{\pi}{3}\right) \\ &= \cos \pi + i \sin \pi = -1 \end{aligned}$$



$$(2) \quad 1 - i = \sqrt{2} \left( \cos \frac{7}{4}\pi + i \sin \frac{7}{4}\pi \right)$$

であるから、ド・モアブルの定理により

$$\begin{aligned} (1 - i)^6 &= \left\{ \sqrt{2} \left( \cos \frac{7}{4}\pi + i \sin \frac{7}{4}\pi \right) \right\}^6 \\ &= (\sqrt{2})^6 \cdot \left( \cos \frac{7}{4}\pi + i \sin \frac{7}{4}\pi \right)^6 = 8 \cdot \left\{ \cos \left( 6 \cdot \frac{7}{4}\pi \right) + i \sin \left( 6 \cdot \frac{7}{4}\pi \right) \right\} \\ &= 8 \left( \cos \frac{21}{2}\pi + i \sin \frac{21}{2}\pi \right) = 8 \left\{ \cos \left( 10\pi + \frac{1}{2}\pi \right) + i \sin \left( 10\pi + \frac{1}{2}\pi \right) \right\} \\ &= 8 \left( \cos \frac{1}{2}\pi + i \sin \frac{1}{2}\pi \right) = 8i \end{aligned}$$

10 方程式  $z^n=1$  の解

極形式を利用して、方程式  $z^3=1$  を解け。

## 要 点

解を  $z=r(\cos \theta + i \sin \theta)$  とおき、ド・モアブルの定理  $(\cos \theta + i \sin \theta)^n = \cos n\theta + i \sin n\theta$  を利用する。  
右辺の 1 も極形式で表し、絶対値と偏角を両辺で比較して  $z$  を求める。  
 $\theta$  は  $0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で考えるとよい。

## 解答

$r > 0$ ,  $0 \leq \theta < 2\pi$  として、 $z=r(\cos \theta + i \sin \theta)$  とおくと、ド・モアブルの定理により

$$z^3 = r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta) \quad \text{また、1 の極形式は } 1 = 1(\cos 0 + i \sin 0)$$

よって  $r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta) = 1(\cos 0 + i \sin 0)$

ここで、1 の偏角は  $0 + 2k\pi$  ( $k$  は整数) であるから、両辺の絶対値と偏角を比較すると

$$r^3 = 1, \quad 3\theta = 2k\pi \quad (k \text{ は整数})$$

$r > 0$  であるから  $r = 1$  また  $\theta = \frac{2}{3}k\pi$   $0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で考えると  $k = 0, 1, 2$

したがって、 $\theta = 0, \frac{2}{3}\pi, \frac{4}{3}\pi$  であるから、求める解は

$$z = \cos 0 + i \sin 0, \quad \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi, \quad \cos \frac{4}{3}\pi + i \sin \frac{4}{3}\pi \quad \text{すなわち } z = 1, \quad \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}, \quad \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2}$$

コラム

方程式  $z^3=1$  の解

$$z = 1, \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}, \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2}$$

を順に  $z_0, z_1, z_2$  として、複素数平面上に図示すると右の図のようになる。

3点  $z_0, z_1, z_2$  は単位円に内接する正三角形の頂点となっている。

また、 $z_1 = \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi$  であり

$$\begin{aligned} z_1^2 &= \left( \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi \right)^2 = \cos \left( 2 \cdot \frac{2}{3}\pi \right) + i \sin \left( 2 \cdot \frac{2}{3}\pi \right) \\ &= \cos \frac{4}{3}\pi + i \sin \frac{4}{3}\pi = z_2 \end{aligned}$$

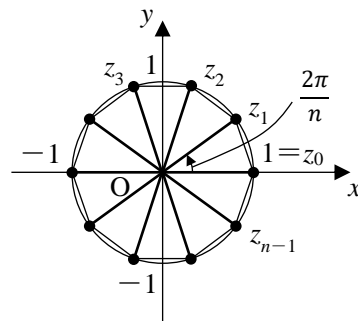
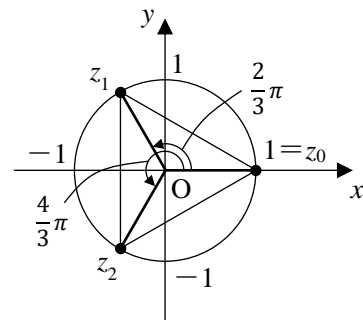
であるので、 $z_2 = z_1^2$  が成り立つ。

一般に、 $n$  が自然数のとき、 $z^n=1$  を満たす複素数  $z$  を **1 の  $n$  乗根** という。複素数平面上に図示すると、点 1 を 1 つの頂点とする単位円に内接する正  $n$  角形の頂点となっている。

$$z = \cos \left( \frac{2\pi}{n} \times k \right) + i \sin \left( \frac{2\pi}{n} \times k \right)$$

ただし  $k=0, 1, \dots, n-1$

と表すことができ、 $k=0, 1, \dots, n-1$  のときの  $z$  を順に  $z_0, z_1, \dots, z_{n-1}$  とすると、 $z_k = z_1^k$  が成り立つ。



1 1 方程式  $z^n = \alpha$  の解 (複素数  $\alpha$  の  $n$  乗根)

方程式  $z^4 = -1$  を解け。

要点

(要点は、「1 0 方程式  $z^n=1$  の解」とほぼ同じ。)

解を  $z=r(\cos \theta + i \sin \theta)$  とおき、ド・モアブルの定理

$$(\cos \theta + i \sin \theta)^n = \cos n \theta + i \sin n \theta$$

を利用する。

右辺も極形式で表し、絶対値と偏角を両辺で比較して  $z$  を求める。

$\theta$  は  $0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で考えるとよい。

**解答**

$r > 0$ ,  $0 \leq \theta < 2\pi$  として,  $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$  とおくと, ド・モアブルの定理により

$$z^4 = r^4(\cos 4\theta + i \sin 4\theta) \quad \text{また, } -1 \text{ の極形式は } -1 = 1(\cos \pi + i \sin \pi)$$

よって  $r^4(\cos 4\theta + i \sin 4\theta) = 1(\cos \pi + i \sin \pi)$

ここで,  $-1$  の偏角は  $\pi + 2k\pi$  ( $k$  は整数) であるから, 両辺の絶対値と偏角を比較すると

$$r^4 = 1, \quad 4\theta = \pi + 2k\pi \quad (k \text{ は整数})$$

$r > 0$  であるから  $r = 1$  　また  $\theta = \frac{\pi}{4} + \frac{k}{2}\pi$ 　  $0 \leq \theta < 2\pi$  の範囲で考えると  $k = 0, 1, 2, 3$

したがって,  $\theta = \frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi, \frac{5}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$  であるから, 求める解は

$$z = \cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4}, \quad \cos \frac{3}{4}\pi + i \sin \frac{3}{4}\pi, \quad \cos \frac{5}{4}\pi + i \sin \frac{5}{4}\pi, \quad \cos \frac{7}{4}\pi + i \sin \frac{7}{4}\pi$$

$$\text{すなわち } z = \frac{\sqrt{2} + \sqrt{2}i}{2}, \quad \frac{-\sqrt{2} + \sqrt{2}i}{2}, \quad \frac{-\sqrt{2} - \sqrt{2}i}{2}, \quad \frac{\sqrt{2} - \sqrt{2}i}{2}$$

**1 2** 線分の内分点・外分点, 三角形の重心を表す複素数

(1) 2点  $P(-1+5i)$ ,  $Q(5+2i)$  を結ぶ線分  $PQ$  を  $1:2$  に内分する点, 外分する点を表す複素数を, それぞれ求めよ。また, 線分  $PQ$  の中点を表す複素数を求めよ。

(2) 3点  $A(-1+5i)$ ,  $B(5+2i)$ ,  $C(2-4i)$  を頂点とする  $\triangle ABC$  の重心を表す複素数を求めよ。

**要 点**

線分の内分点, 外分点

2点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$  を結ぶ線分  $AB$  を  $m:n$  に 内分する点は  $\frac{n\alpha + m\beta}{m+n}$ , 外分する点は  $\frac{-n\alpha + m\beta}{m-n}$

特に, 線分  $AB$  の中点は  $\frac{\alpha + \beta}{2}$

三角形の重心

3点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$ ,  $C(\gamma)$  を頂点とする  $\triangle ABC$  の重心は  $\frac{\alpha + \beta + \gamma}{3}$

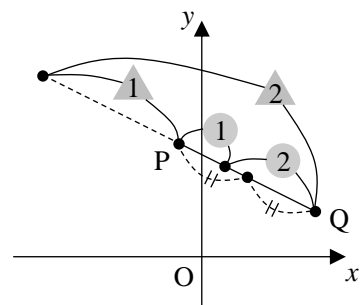
**解答**

(1) 線分  $PQ$  を  $1:2$  に

$$\text{内分する点は } \frac{2(-1+5i) + 1 \cdot (5+2i)}{1+2} = \frac{3+12i}{3} = 1+4i$$

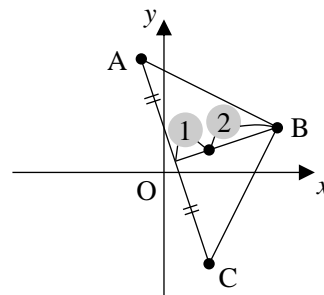
$$\text{外分する点は } \frac{-2(-1+5i) + 1 \cdot (5+2i)}{1-2} = \frac{7-8i}{-1} = -7+8i$$

$$\text{線分 } PQ \text{ の中点は } \frac{(-1+5i) + (5+2i)}{2} = \frac{4+7i}{2}$$



(2) 求める重心は

$$\frac{(-1 + 5i) + (5 + 2i) + (2 - 4i)}{3} = \frac{6 + 3i}{3} = 2 + i$$



**13** 2点間の距離

2点  $P(-1+5i)$ ,  $Q(5+2i)$  間の距離を求めよ。

**要 点**

複素数平面上の2点  $\alpha$ ,  $\beta$  間の距離は  $|\beta - \alpha|$

〈注意〉  $a, b$  を実数とする。  $z = a + bi$  のとき  $|z| = \sqrt{a^2 + b^2}$

**解答**

$$|(5 + 2i) - (-1 + 5i)| = |6 - 3i| = \sqrt{6^2 + (-3)^2} = \sqrt{45} = 3\sqrt{5}$$

**14** 等式を満たす点のえがく図形(1) (垂直二等分線, 円)

次の等式を満たす点  $z$  のえがく図形を求めよ。

(1)  $|z-2| = |z+3i|$

(2)  $|3z-4+5i| = 6$

**要 点**

**垂直二等分線**

異なる2定点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$  と動点  $P(z)$  に対して

$$|z - \alpha| = |z - \beta| \Leftrightarrow AP = BP \Leftrightarrow \text{点 } P \text{ は2点 } A, B \text{ から等距離にある}$$

したがって, 等式  $|z - \alpha| = |z - \beta|$  を満たす点  $z$  のえがく図形は, 2点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$  を結ぶ線分  $AB$  の垂直二等分線である。

**円**

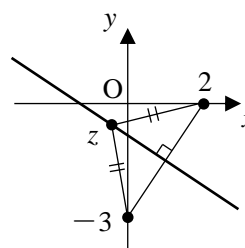
定点  $A(\alpha)$  と動点  $P(z)$ , 正の実数  $r$  に対して

$$|z - \alpha| = r \Leftrightarrow AP = r \Leftrightarrow \text{点 } P \text{ は点 } A \text{ から一定の距離 } r \text{ にある}$$

したがって, 等式  $|z - \alpha| = r$  を満たす点  $z$  のえがく図形は, 点  $A(\alpha)$  を中心とする半径  $r$  の円である。

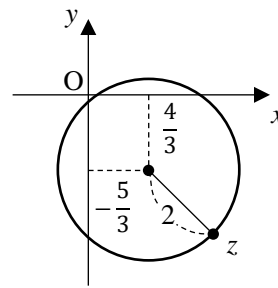
**解答**

(1)  $|z-2| = |z+3i|$  から, 点  $z$  は 2点  $2$ ,  $-3i$  を結ぶ線分の垂直二等分線 をえがく。



(2) 与えられた等式を変形すると  $\left|z - \frac{4-5i}{3}\right| = 2$

よって、点 $z$ は点  $\frac{4-5i}{3}$  を中心とする半径2の円  
をえがく。



コラム

(1), (2)は,  $x, y$ を実数とし,  $z = x + yi$ とおいて  $|z|^2 = z\bar{z}$  を利用すると,  $xy$ 平面上の図形の方程式を求める方法で点 $z$ のえがく図形を求めることもできる。

また,  $z = x + yi$  とおくことで, 次の点 $z$ のえがく図形を求めることもできる。

- ①  $z + \bar{z} = a$  ( $a$ は実数)
- ②  $z - \bar{z} = bi$  ( $b$ は実数)

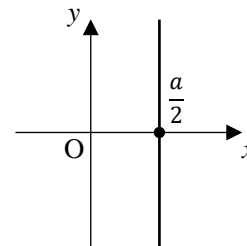
解答

①  $z = x + yi$ とおくと,  $\bar{z} = x - yi$ であるから  
 $z + \bar{z} = (x + yi) + (x - yi) = 2x$

よって,  $2x = a$ より  $x = \frac{a}{2}$

したがって,  $z = \frac{a}{2} + yi$ であるから, 点 $z$ は

点  $\frac{a}{2}$  を通り, 実軸に垂直な直線 をえがく。

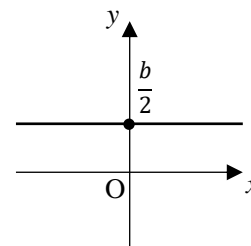


②  $z = x + yi$ とおくと,  $\bar{z} = x - yi$ であるから  
 $z - \bar{z} = (x + yi) - (x - yi) = 2yi$

よって,  $2yi = bi$ より  $y = \frac{b}{2}$

したがって,  $z = x + \frac{b}{2}i$ であるから, 点 $z$ は

点  $\frac{b}{2}i$  を通り, 虚軸に垂直な直線 をえがく。



15 等式を満たす点のえがく図形(2) (アポロニウスの円)

等式  $|z| = 2|z + 3i|$  を満たす点 $z$ のえがく図形を求めよ。

**要 点**

等式の両辺を 2 乗して、 $|z|^2 = z\bar{z}$  を利用して絶対値をはずす。  
 共役な複素数の性質  $\overline{\alpha + \beta} = \bar{\alpha} + \bar{\beta}$ ,  $\overline{\alpha - \beta} = \bar{\alpha} - \bar{\beta}$ ,  $z\bar{z} = |z|^2$   
 を用いて、「14 等式を満たす点のえがく図形(1)」で学習したような、既知の形に変形する。

**解答**

等式の両辺を 2 乗すると  $|z|^2 = 4|z + 3i|^2$

共役な複素数の性質により

$$\begin{aligned} z\bar{z} &= 4(z + 3i)\overline{(z + 3i)} \\ &= 4(z + 3i)(\bar{z} - 3i) \end{aligned}$$

展開すると  $z\bar{z} = 4(z + 3i)(\bar{z} - 3i) = 4(z\bar{z} - 3iz + 3i\bar{z} - 9i^2) = 4z\bar{z} - 12iz + 12i\bar{z} + 36$

整理すると  $z\bar{z} - 4iz + 4i\bar{z} + 12 = 0$

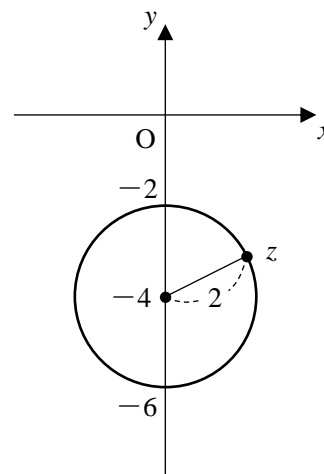
絶対値の 2 乗ができるように変形すると

$$\begin{aligned} z(\bar{z} - 4i) + 4i(\bar{z} - 4i) + 16i^2 + 12 &= 0 \\ (z + 4i)(\bar{z} - 4i) &= 4 \\ (z + 4i)\overline{(z + 4i)} &= 4 \\ |z + 4i|^2 &= 2^2 \end{aligned}$$

よって  $|z + 4i| = 2$

したがって、点  $z$  は点  $-4i$  を中心とする半径 2 の円をえがく。

$\overline{z + 4i} = \bar{z} - 4i$ である  
 ことを考慮して、  
 $(z + 4i)(\bar{z} - 4i)$   
 の形ができるように  
 式変形する。



**コ ラ ム**

$x, y$  を実数とし、 $z = x + yi$  において  $|z|^2 = z\bar{z}$  を利用すると、 $xy$  平面上の図形の方程式を求める方法で点  $z$  のえがく図形を求めることもできる。

また、2 定点  $O(0), A(-3i)$  と動点  $P(z)$  とすると、与えられた等式は

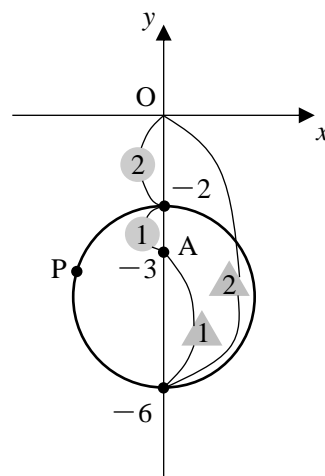
$$OP = 2AP \quad \text{すなわち} \quad OP : AP = 2 : 1$$

とみることができる。これはアポロニウスの円であるから、動点  $P$  は線分  $OA$  を  $2 : 1$  に

$$\text{内分する点, すなわち} \quad \frac{0 - 6i}{2 + 1} = -2i \quad \text{と,}$$

$$\text{外分する点, すなわち} \quad \frac{-0 - 6i}{2 - 1} = -6i$$

を直径とする円をえがく。



**16** ともなって動く点のえがく図形

点  $z$  が原点  $O$  を中心とする半径  $1$  の円周上を動くとき、 $w=zi+2-i$  を満たす点  $w$  のえがく図形を求めよ。

**要 点**

- ① 点  $z$  の条件を満たす等式を求める。
- ② 与えられた  $w$  の条件式を  $z$  について解き、①の等式に代入する。
- ③ ②の等式から、点  $w$  のえがく図形を求める。

**解答**

点  $z$  は原点  $O(0)$  を中心とする半径  $1$  の円をえがくから  $|z|=1$  ……①

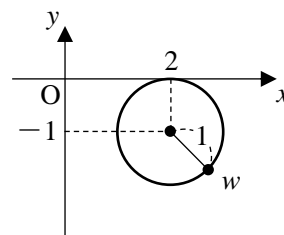
$w = zi + 2 - i$  から  $zi = w - 2 + i$        $z = \frac{w - 2 + i}{i}$       よって  $z = -iw + 2i + 1$

これを①に代入すると  $|-iw + 2i + 1| = 1$        $|-i| \left| w - 2 - \frac{1}{i} \right| = 1$

ここで、 $|-i| = \sqrt{0^2 + (-1)^2} = 1$ 、 $-\frac{1}{i} = i$  であるから

$$|w - (2 - i)| = 1$$

したがって、点  $w$  は 点  $2 - i$  を中心とする半径  $1$  の円をえがく。



**17** 2直線のなす角, 3点が一直線上にある条件, 垂直条件

- (1) 3点を  $A(2+3i)$ ,  $B(-1+2i)$ ,  $C(-i)$  とするとき、 $\angle BAC$  の大きさを求めよ。
- (2) 3点  $A(2+3i)$ ,  $B(-1+2i)$ ,  $C(a+i)$  が次の条件を満たすように、実数  $a$  の値を定めよ。
  - ① 3点  $A, B, C$  が一直線上にある      ②  $AB \perp AC$

**要 点**

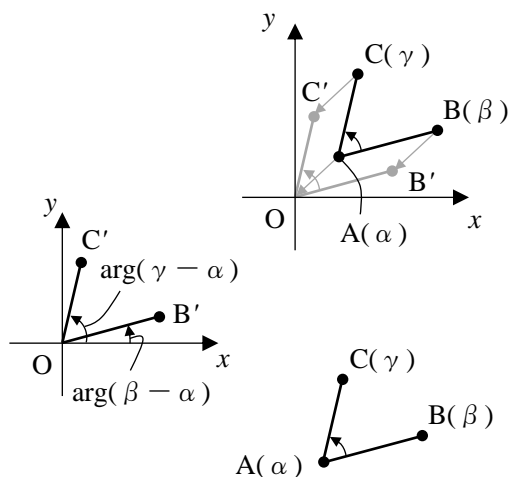
**2直線のなす角**

異なる3点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$ ,  $C(\gamma)$  に対して、半直線  $AB$  から半直線  $AC$  へ測った角  $\angle BAC$  について考える。  
 点  $A$  を原点  $O$  に移す平行移動によって、点  $B, C$  をそれぞれ点  $B', C'$  に移すとき、点  $B', C'$  を表す複素数はそれぞれ  $\beta - \alpha$ ,  $\gamma - \alpha$  であるから

$$\angle BAC = \angle B'OC' = \arg(\gamma - \alpha) - \arg(\beta - \alpha) = \arg \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$$

以上をまとめると、異なる3点を  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$ ,  $C(\gamma)$  と

するとき  $\angle BAC = \arg \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$





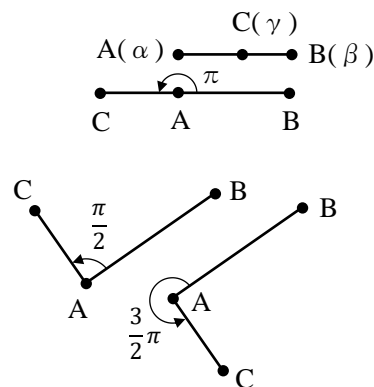
**3点A, B, Cが一直線上にある条件, 垂直条件**

異なる3点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$ ,  $C(\gamma)$  に対して,  $0 \leq \angle BAC < 2\pi$  とすると

- $\angle BAC = 0$  または  $\pi$  のとき, 3点 A, B, C は一直線上にある。
- $\angle BAC = \frac{\pi}{2}$  または  $\frac{3}{2}\pi$  のとき,  $AB \perp AC$  である。

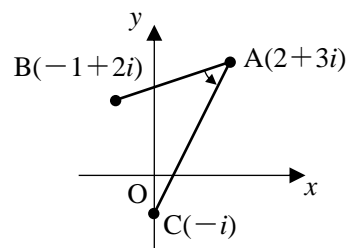
したがって, 異なる3点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$ ,  $C(\gamma)$  に対して, 次のことが成り立つ。

- 3点 A, B, C が一直線上にある  $\Leftrightarrow \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$  が実数
- $AB \perp AC \Leftrightarrow \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$  が純虚数



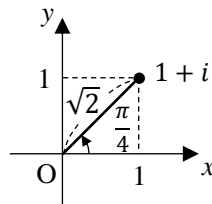
**解答**

$$\begin{aligned}
 (1) \quad \angle BAC &= \arg \frac{-i - (2 + 3i)}{(-1 + 2i) - (2 + 3i)} = \arg \frac{-2 - 4i}{-3 - i} \\
 &= \arg \frac{(-2 - 4i)(-3 + i)}{(-3 - i)(-3 + i)} = \arg \frac{6 - 2i + 12i - 4i^2}{9 - i^2} \\
 &= \arg \frac{10 + 10i}{10} = \arg(1 + i)
 \end{aligned}$$



ここで,  $1 + i = \sqrt{2} \left( \cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$  であるから

$$\arg(1 + i) = \frac{\pi}{4}$$



よって  $\angle BAC = \frac{\pi}{4}$

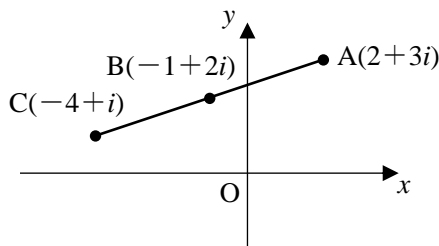
(2)  $\alpha = 2 + 3i$ ,  $\beta = -1 + 2i$ ,  $\gamma = a + i$  とし, まず  $\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$  を計算すると

$$\begin{aligned}
 \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} &= \frac{(a + i) - (2 + 3i)}{(-1 + 2i) - (2 + 3i)} = \frac{(a - 2) - 2i}{-3 - i} = \frac{\{(a - 2) - 2i\}(-3 + i)}{(-3 - i)(-3 + i)} \\
 &= \frac{-3(a - 2) + (a - 2)i + 6i - 2i^2}{9 - i^2} = \frac{(-3a + 8) + (a + 4)i}{10} \dots\dots (i)
 \end{aligned}$$

① 3点 A, B, C が一直線上にあるには,

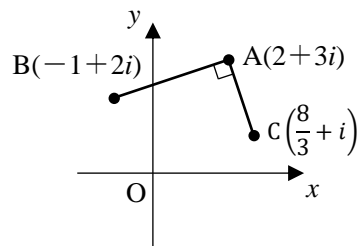
(i) が実数であればよい。

よって,  $a + 4 = 0$  から  $a = -4$



- ②  $AB \perp AC$  となるには,  
 (i)が純虚数であればよい。  
 よって,  $-3a+8=0$  かつ  $a+4 \neq 0$  から

$$a = \frac{8}{3}$$



**18** 三角形の形状

- (1) 異なる3点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$ ,  $C(\gamma)$  に対して, 等式  $\beta + \alpha i = \gamma(1+i)$  が成り立つとき,  $\triangle ABC$  はどのような三角形か。  
 (2) 異なる3点  $O(0)$ ,  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$  に対して, 等式  $\alpha^2 - \alpha\beta + \beta^2 = 0$  が成り立つとき,  $\triangle OAB$  はどのような三角形か。

**要 点**

- (1) 異なる3点  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$ ,  $C(\gamma)$  に対して,

$$\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} = z$$

となるとすると  $\angle BAC = \arg z$

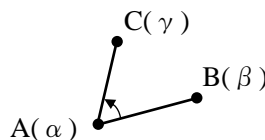
である。また,  $\frac{|\gamma - \alpha|}{|\beta - \alpha|} = |z|$  であるから

$$AC : AB = |z| : 1$$

である。これらにより, 2辺の比とその間の角がわかるので,  $\triangle ABC$  の形状がわかる。  
 よって,  $\triangle ABC$  の形状を調べるときは, 次の形に変形する。

$$\frac{\Delta - O}{\square - O} = x + yi \quad (O, \square, \Delta \text{ は頂点を表す複素数, } x, y \text{ は実数})$$

- (2) 三角形の頂点の1つが原点であるから, 複素数  $\frac{\alpha}{\beta}$  を求めれば, (1)と同様にして  $\triangle OAB$  の形状を調べることができる。



**解答**

- (1) 等式を変形すると,  $\beta + \alpha i = \gamma + \gamma i$  より  $\beta - \gamma = (\gamma - \alpha)i$

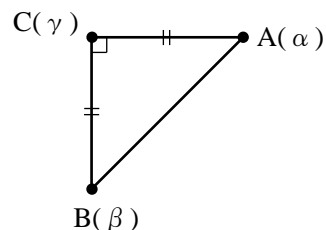
よって  $\frac{\beta - \gamma}{\alpha - \gamma} = -i$

ここで,  $|-i|=1$  であり,

$\frac{\beta - \gamma}{\alpha - \gamma}$  は純虚数であるから

$$CA = CB, \quad CA \perp CB$$

したがって,  $\triangle ABC$  は  $CA = CB$  の直角二等辺三角形である。



(2)  $\beta \neq 0$  より  $\beta^2 \neq 0$  であるから、等式の両辺を  $\beta^2$  で割ると

$$\frac{\alpha^2}{\beta^2} - \frac{\alpha}{\beta} + 1 = 0$$

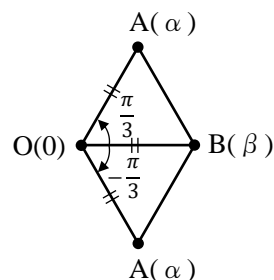
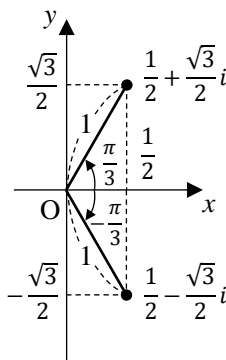
よって 
$$\frac{\alpha}{\beta} = \frac{-(-1) \pm \sqrt{1-4}}{2} = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$$

ここで、 $\frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} = \cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3}$  であるから

$$\left| \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} \right| = 1, \quad \arg \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} = \pm \frac{\pi}{3}$$

したがって、 $OB = OA$ ,  $\angle BOA = \pm \frac{\pi}{3}$  である

から、 $\triangle OAB$  は 正三角形 である。

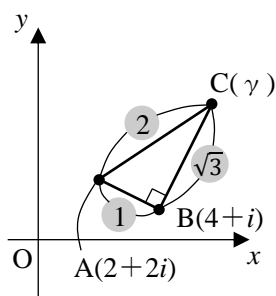


**19** 点  $\alpha$  のまわりの回転移動と拡大・縮小

(1)  $\alpha = 2 + 2i$ ,  $\beta = 4 + i$  とするとき、点  $\beta$  を点  $\alpha$  のまわりに  $\frac{\pi}{4}$  だけ回転した点を表す複素数  $z$  を求めよ。

(2) 3 点  $A(2+2i)$ ,  $B(4+i)$ ,  $C(\gamma)$  を頂点とする三角形が、右の図のような

$AB : AC : BC = 1 : 2 : \sqrt{3}$  の直角三角形であるとき、 $\gamma$  を求めよ。



**要 点**

点  $\beta$  を、点  $\alpha$  のまわりに  $\theta$  だけ回転し、点  $\alpha$  からの距離を  $r$  倍した点  $z$  について考える。

点  $\alpha$  を原点  $O$  に移す平行移動によって、点  $\beta$ ,  $z$  をそれぞれ点  $\beta'$ ,  $z'$  に移すとき、点  $\beta'$ ,  $z'$  を表す複素数はそれぞれ  $\beta - \alpha$ ,  $z - \alpha$  である。

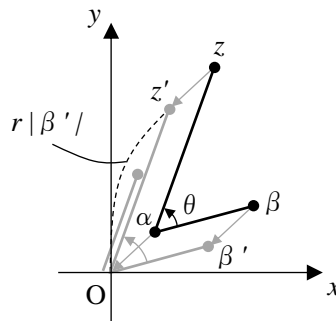
点  $\beta'$  を原点  $O$  のまわりに  $\theta$  だけ回転し、原点からの距離を  $r$  倍した点  $z'$  である。

よって、「7 複素数の積を表す点」で学習したことから  $z' = r(\cos \theta + i \sin \theta) \cdot \beta'$

すなわち  $z - \alpha = (\beta - \alpha) \cdot r(\cos \theta + i \sin \theta)$

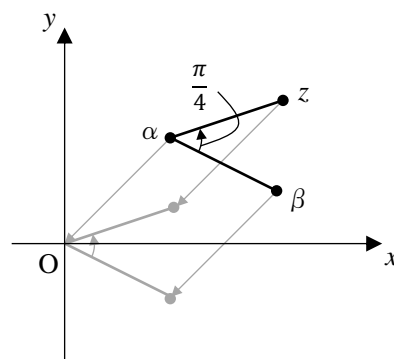
以上をまとめると、点  $\beta$  を、点  $\alpha$  のまわりに  $\theta$  だけ回転し、点  $\alpha$  からの距離を  $r$  倍した点  $z$  を表す複素数は

$$z = (\beta - \alpha) \cdot r(\cos \theta + i \sin \theta) + \alpha$$



**解答**

$$\begin{aligned}
 (1) \quad z &= \{(4+i) - (2+2i)\} \cdot \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4}\right) + (2+2i) \\
 &= (2-i) \cdot \left(\frac{\sqrt{2} + \sqrt{2}i}{2}\right) + (2+2i) \\
 &= \sqrt{2} + \sqrt{2}i - \frac{\sqrt{2}}{2}i - \frac{\sqrt{2}}{2}i^2 + 2 + 2i \\
 &= 2 + \frac{3\sqrt{2}}{2} + \left(2 + \frac{\sqrt{2}}{2}\right)i
 \end{aligned}$$



(2)  $\alpha = 2 + 2i$ ,  $\beta = 4 + i$  とすると, 点  $\gamma$  は, 点  $\beta$  を点  $\alpha$  のまわりに  $\frac{\pi}{3}$  だけ回転し, 点  $\alpha$  からの距離を 2 倍した点である。

$$\begin{aligned}
 \text{よって } \gamma &= \{(4+i) - (2+2i)\} \cdot 2 \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}\right) + (2+2i) \\
 &= (2-i) \cdot 2 \left(\frac{1 + \sqrt{3}i}{2}\right) + (2+2i) = 2 + 2\sqrt{3}i - i - \sqrt{3}i^2 + 2 + 2i \\
 &= 4 + \sqrt{3} + (1 + 2\sqrt{3})i
 \end{aligned}$$

**研究** 不等式  $|z - \alpha| \leq r$  の表す領域

複素数  $z$  が, 不等式  $|3z - 4 + 5i| \leq 6$  を満たすとき, 点  $z$  の表す領域を図示せよ。

**要 点**

定点  $A(\alpha)$  と動点  $P(z)$ , 正の実数  $r$  に対して

$$|z - \alpha| \leq r \iff AP \leq r \iff 2 \text{ 点 } P, A \text{ 間の距離は } r \text{ 以下}$$

したがって, 等式  $|z - \alpha| \leq r$  を満たす点  $z$  の表す領域は, 点  $A(\alpha)$  を中心とする半径  $r$  の円およびその内部である。

〈注意〉・不等式  $|z - \alpha| < r$  の表す領域は, 点  $\alpha$  を中心とする半径  $r$  の円の内部

・不等式  $|z - \alpha| \geq r$  の表す領域は, 点  $\alpha$  を中心とする半径  $r$  の円およびその外部

・不等式  $|z - \alpha| > r$  の表す領域は, 点  $\alpha$  を中心とする半径  $r$  の円の外部

**解答**

与えられた等式を変形すると  $\left|z - \frac{4 - 5i}{3}\right| \leq 2$

よって, 点  $z$  の表す領域は,

点  $\frac{4 - 5i}{3}$  を中心とする半径 2 の円およびその内部

で, 右の図の斜線部分である。

ただし, 境界線を含む。

